

## 平成24年度県立学校経営予算プレゼン梓事業レビューシート

学校名	岡山県立津山商業高等学校
事業名	『「つしょう夢づくりプラン」ーグローバル人材育成プログラムー』
事業の必要性・テーマ	<p>本校は県北唯一の単科商業系の専門高校であり、地域の経済に有益な人材を輩出してきた。しかし近年少子化の続く中で、「商業教育は必要だけれども商業高校はいらない」という風潮を受け、中学生の商業高校離れが続いている。このような状況の中で、本校のミッションである商業教育の魅力づくりをよりいっそう進め、地域に必要とされ選ばれる商業高校となるという具現化は喫緊の課題である。</p> <p>そこで、「国際感覚」「言語活動の充実」「地域」「実学」をキーワードに、国際的な視野を身につけさせるとともに、地域と密着し、将来的には地元に戻り地域経済に貢献する人材を育成するための夢づくりプランとして、GLOBAL(地球規模)とLOCAL(地域的)な感覚を兼ね備えた『グローバル人材育成プログラム』を実施する。</p> <p>本校はこれまでの体験的学習を通して、「生きる力」と「豊かな人間性」の育成をテーマとし、地域密着型実践教育を推進してきた。その一環である学校設定科目「ベンチャービジネス」は7年目を迎え、実社会の厳しい現実の中で、緊張感を持った取り組みを展開してきた。また、「起業実践」では全校生徒での大規模販売実習「津商モール」を企画・実施し、地元企業との連携を強化してきた。国際ビジネス科においては、留学生との交流などを通して国際交流・異文化理解に取り組んできた。このような取り組みの集大成として、「グローバル人材育成プログラム」実施し、成果と実績を上げるビジネス教育実践校として、生徒・保護者の満足度100%の学校をつくる第1歩とする。</p>
事業の概要・進め方	<p>「グローバル人材育成」事業の概要 1「グローバル」事業</p> <p>①本校開発商品の海外販売実習(シンガポール) これまで5年間継続してきた錦鯉の生産・育成・販売を通して、錦鯉をシンガポールで販売する。また、これまで開発してきた、つしょう猪ラーメン・湯之元セットなど、約10種類の独自開発商品の販売実習をシンガポールで行う。</p> <p>②海外留学生や中国の高校生の訪問受け入れ・交流 国際ビジネス科を中心に、海外の留学生との交流や中国高校生訪問団のホームステイ受入などを行う。</p> <p>2「ローカル」事業</p> <p>①岡山商科大学との連携による津山市・津山市阿波地区活性化 津山市中心部の商店街活性化を授業の中で行う。また、過疎化が進む阿波地区の観光資源開発を基に、地域おこしを実践する。</p> <p>②鏡野町・つやま新産業創出機構との連携による地域特産品を用いた商品開発と販売 鏡野町や津山市の第三セクターと連携し、地域特産品を使った商品開発を行う。</p> <p>③地域の歴史文化に興味・関心を持たせるための「美作の国 つやま検定」の企画と実施 商業クラブ主催で「つやま検定」を企画・実施する。</p> <p>進め方 学校設定科目「ベンチャービジネス」や「起業実践」、「課題研究」を中心とした取り組みで、上記のような内容を具体的に実施する。また、教科・科目以外に商業クラブでの取り組みや学校行事での取り組みを実施する。</p>
達成目標	<p>1 学校経営計画に基づいた「学校診断アンケート」の生徒・保護者の満足度ををはかる以下の項目を検証し、「よく当てはまる」+「当てはまる」の割合が100%になる学校づくりを達成目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が、地域密着型実践教育を通じ、自ら考え行動し、企業との交渉や商品企画をできる。</li> <li>・販売実習において、自己の役割を果たし、商品に愛着を持ち、接客ができる。</li> <li>・国際感覚を身に付け異文化を理解し、外国語を駆使し様々な方とコミュニケーションが取れる。</li> </ul> <p>2 進学・就職に対する進路満足度調査により、生徒本人の希望実現度やそこへ導くための進路指導への生徒・保護者の信頼や満足度を改善し、日々の学習や部活動の指導だけでなく、卒業後の進路先についても生徒・保護者の満足度100%を保障する。</p> <p>3 地域への貢献度ををはかる指標としては、学校評議員や学校関係者評価委員会の意見・評価を検証する。また中学校ごとの本校への希望倍率を検証し、中学生が「津商で学びたい」と思える魅力あるカリキュラムや学習環境づくり、保護者が「行かせたい」と思う教員集団の手厚い生徒指導・進路指導を展開する。</p> <p>4 津商モールの集客数や協力企業数の推移を検証項目として、商業教育を中心にした魅力ある学校づくりの指標とする。</p> <p>結果的に、地域に必要とされ成果と実績を上げるビジネス教育実践校として、生徒・保護者の満足度100%の学校をつくる。</p>

## 平成24年度県立学校経営予算プレゼン事業レビューシート

実績と成果	<p>・グローバル人材育成における「グローバル事業」では、①シンガポールで6日間の錦鯉販売実習を行った。そして販売のみではなく、そのために必要な、海外諸機関との交渉や商品の輸出のために必要な書類の作成や為替、海外の市場状況などを体験し多くのことを学ぶことができた。また、準備のために約5ヶ月間の英会話レッスンを続け、語学力向上の動機付けにもつながった。販売実習を終えて、国際間の文化や経済状況、人々の生活習慣や気質の違いなどを肌で感じることで、大いに視野を広めるとともに、国は違っても人の優しさや思いやり、気質にふれ、あらためて日本人としての感性や優しさなどの「ジャパンプレミアム」を見直す機会にもなった。数日間の実習ではあったが、生徒個々の今後の目標設定の大きなステップとなり、充実感・満足感・達成感を味あわせることができた。②海外留学生との交流では岡山商科大学との連携の中で留学生との交流や中国研修旅行を実施し、異文化にふれさせることで、国境のないグローバルな感性の育成の一助となった。</p> <p>「ローカル事業」では、③津山市阿波地区活性化構想を生徒自ら考え、調査研究活動や提案活動(2月18日実施)を行うことで異世代間でのコミュニケーションを持つことや連携を深めることができた。④地域連携においては、津山市・鏡野町主催のイベントに参加し、「地域に喜ばれる活動」を実践する中で、生徒は自信や満足感や信頼関係の大切さを学ぶことができた。また、「みまさかの国津山検定」(2月11日実施)による地域学習や地域を知る活動を行うことで、地元の歴史や文化の源を知り、地域の中での本校のミッションを再認識することができた。その他、大きな成果としては次のようなものがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の活動として、思考力や判断力・表現力が増し学習意欲の向上につながった。</li> <li>・地域に必要とされ成果と実績を上げるビジネス教育実践校としての活動ができた。</li> </ul>	達成率	90%
今後の課題	<p>・グローバル人材育成のためには海外販売実習など大変有効であるが、予算面で負担がかかり、継続的に実施するためにはある程度の利益をあげ、それを当てる必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外販売実習については渡航費などの経費の一部は個人負担とすることも検討する必要がある。</li> <li>・今年度、海外販売実習は授業の一環で実施したため、一部の生徒しか機会が与えられなかったが、より多くの機会を与えることが必要である。</li> <li>・岡山商科大学の留学生との交流や中国研修旅行は「国際ビジネス科」の生徒を対象に実施したが、学科の枠を超えて、全生徒に均等に機会を与えたい。</li> <li>・地域連携においては、今年度は「地域ビジネス科」「商業クラブ」での活動となったが、「国際ビジネス科」「情報ビジネス科」なども全学科科がそれぞれ、教科・科目にて連携できる活動としたい。</li> <li>また、社会貢献活動としての取り組みも行いたい。</li> <li>・全ての生徒、全ての教職員がそれぞれの取り組みの主役として、単年度活動ではなく進化した「グローバル人材育成プログラム」として、将来のスペシャリストの育成のために継続実施しなければならないと考える。</li> </ul>		

## 平成24年度県立学校経営予算プレゼン事業レビューシート

学校自己評価	5段階評価	5 ・ ④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
	次年度以降の継続性	<p>「国際感覚」「地域」「実学」をキーワードとして、グローバル人材育成プログラムを実施してきたが、「グローバル」事業、「ローカル事業」ともに、全ての生徒、全ての教職員がそれぞれの取り組みの主役として、単年度活動ではなく進化した「プログラム」として、将来のスペシャリストの育成のために継続実施しなければならないと考える。</p>
主管課評価	5段階評価	5 ・ 4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
	見直しの余地改善提案等	<p>中間評価の際には、シンガポールでの販売に向け多くの課題点が見られたが、当初の計画通り、交渉や語学研修などを計画的に進め、実際の販売まで漕ぎ着くことができたところは評価できる。</p> <p>また、ローカル事業では、地域活性化に向けて生徒が自ら考え調査し、提案活動に繋いで行くなかで地域を見つめ直すよい取組になったと評価できる。</p> <p>今後、この事業を契機により多くの生徒が関わって、グローバル・ローカルの視点を持って自ら考え判断し、動くことができる人材の育成に取り組んでいただきたい。</p>
委員評価	5段階評価	5 ・ 4 ・ 3 ・ ② ・ 1
	指摘・指導・助言	<p>「グローバル人材育成」というテーマの下、地域の学校としてさらなるステップアップを目指し、多岐にわたる挑戦がなされたことについて、教職員の方々、生徒諸氏の真摯な取組への努力を高く評価したい。しかし、各プログラム間の関連性が明確でなく、それぞれが別個の取組として行われているため、学習成果と波及効果という点からみたととき、本プログラムによって期待される「グローバル人材育成」に資する学習成果が生徒間で共有され、学習への意欲や態度にさらなる深まりを促したかという点について、またこの成果を次年度以降に継続するための礎にできたかという点では疑問がある。</p> <p>グローバルプログラムについては、シンガポールでの養殖鯉販売実習において、生徒が“体当たり”での貴重な経験を積んだことは認められる。しかし、現地の文化や社会情勢の学習あるいは検疫・通関といったこのプログラム特有の課題への取組については、その事前学習等を含め、期待されるような学習経験・学習成果が十分には感じられない。また、中国研修旅行についても、その目標設定と学習成果について物足りなさを感じられる。</p> <p>ローカルプログラムでは、津山市の販売実習、津山検定の主催など、生徒を中心とした意欲的な取組が見られた点は高く評価したい。ただし、取組が当該の一部の生徒にとどまっていたり、提携している他機関への協賛にとどまっていたりするように感じられるプログラムもある。そのため、プログラムの規格・運営等について学校や生徒の主体性がよく読み取れず、学校としての組織的な教育成果についてはやや物足りなさを感じる。</p> <p>以上のような見解に基づき、本予算枠での事業としてみれば、当初の目標を十分に達成していないと判断せざるを得ない。なお、この評価は本テーマの下で取り組まれたプログラムそのものの意義を軽視するものではない。むしろ、地域の商業高校のあり方に一石を投じる取組として、非常に重要なコンセプトとその具体例を提起していると思われるものである。次年度以降も、組織的な取組を継続的に進めることによって、これらのプログラムのさらなる改善と進化を期待したい。</p>